

---

# いつだったのか、忘れるくらい君が好きで。

サークルO.L.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いつだつたのか、忘れるくらい君が好きで。

### 【著者名】

サークル〇・」・

N6256Z

### 【あらすじ】

タイトルが本編で、内容は詩である。

君を好きになつたのはいつなのか？（前書き）

タイトルが本題で、お送りするのは尖角です。

君を好きになつたのはいつなのか？

悲しいかな、今日も俺は独りに耐えて生きている。

苦しいかな、友達も彼女もいなただ一人の孤独の生活は。

嬉しいかな、誰にも知らずに死ねるたつた一つの喜びは。

俺は涙を流さない。

涙といつもはとつての昔に枯れてしまつたのだから。

大好きなんて言葉にはとつて飽きてしまつたのだ。

伝えることができない、たつた一人の俺にのしかかる重圧。

そこにあるのは空虚な生活。

悲しみも、怒りも、喜びも、楽しみも、愛も、何も、そこにはない。

俺が君から奪つた幸せは、俺から君といつもの奪つた。

それは、昨日の話だったのか？

それとも、数年前の過去の話なのか？

それとも、俺が生まれるずっと前の話だったのか？

俺はたつた一人の孤独な悪魔。

俺に涙なんてものはいらない。

その涙を映すものは無く、誰も拭ってなどくれないのだから。

自分で拭う」となんてできないよ。

「君を抱きたい」といつために腕を切り落としたから。

君に近づくことなんてできないよ。

その欲望を鎮めるために足を切り落としたのだから。

君の鼓動を知ることはできないよ。

君にしたよ、僕の胸にも穴をあけたのだから。

大好きだったんだ。この世の中で最も。

だけど、俺は罪深き罪人。

君に愛の生き死にを教えることなどできないのだ。

所詮、俺は生けとし死せるもの。

何もそこにはありはしない。

ただ、そこにあるのはたつた一人の虚しき存在。

俺はふと、記憶の奥底を探つてみる。

夢か現か、幻か？

涙の意味は何なのか？

苦しいとは何なのか？

君というものは何なのか？

嬉しさは所々で俺に話しかける。

「君は今、幸せですか？」

「いいや、別に？」俺は答える。

寂しさは俺に話を振りつづける。

「君は一人でもいいのかい？」

「ああ、寂しくはないよ、」

悲しさは俺に言葉を投げかける。

「君は一体、何がしたい？」

「それは、ただただ死にたいだけだ・・・」

君は俺に言つのである。

「あなたは良い人

」

じゃあ、なぜこんなことになるのか？

俺には意味が分からぬ。

愛が愛で無くなつた時、それは一体何になると思つ？

それはゾンビさ、寂しさゆえの一人の人生。

そうだ、俺は無意味に生きるだけ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6256z/>

---

いつだったのか、忘れるくらい君が好きで。

2011年12月20日22時46分発行